

プラン名称: 出会いの春 戀慕う秋 ~文学へのいざない~

チーム名	富士川文庫	対象地域	山梨ステージ
大学名	静岡県立文化芸術大学	テーマ	ミズベリングと連動した富士川水系流域の「観光まちづくりプラン」
リーダー名	芦澤侑哉		
指導教員名	西田かほる		
メンバー名	芦澤侑哉、宮本温子、植木朝香、三宅エベルトン		

【本選出場】 ミズベリング賞 受賞

①問題提起

1. 行楽シーズン(5月・9月)に観光客数が少ない。
2. 道の駅やドライブインが通過点になってしまっている。
3. 富士川町をイメージづけるものが必要。
4. 「暮らしてと自然が輝く 交流のまち 富士川町」らしく、人と自然とが交流できる町にしたい。

②フィールドワーク

1. 道の駅で観光客が集中していた。
 - ・主に県内と静岡県から来ていた
 - ・地元で採れた野菜や果物の販売⇒滞在時間を長くするには？
2. 特色豊かな歴史や文化があった。
 - ・町中で多くの文学碑を確認
 - ・歴史や文化に触れる施設があった。⇒富士川町のイメージ化に生かされる可能性
3. 道の駅前の親水公園には市民や観光客の憩いの場になりそうな空間の存在。
⇒富士川を感じられるイベントの企画ができそう。

③解決策

1. 通過点ではなく、長く滞在してもらえそうなイベントや空間の提供を行う。
2. 文学碑、歴史や文化を生かして富士川町のイメージ化を図る。
3. 道の駅の前で水辺を生かした、富士川町が感じられるイベント、
「富士川 BOOK FESTIVAL」を提案する。

④提案内容

「自然の中でゆっくり文学が楽しめるまち」の実現

- ・富士川道の駅利用者
⇒非日常を味わいに立ち寄ってもらう。
- ・文学を愛する人
⇒水辺でくつろげ、癒される空間で読書してもらう。

⑤本プランの新規制

水辺: 自然と触れ合い、買った本をその場で読むスペース
文学: 毎回テーマを設け、書籍(新刊・新小本・古本・古書)の販売・ワークショップの企画を行う
人: 富士川ゆかりの作家による座談会やワークショップ等の開催・文学ファンの交流イベントを企画
地域: 文学にゆかりのある地域のスポットの発掘
地域の観光スポットと連携した富士川の魅力アピール

⑥期待できる効果

- 観光振興
富士川町のブランディング化 市民の意識変化
地域内外からの集客 交流
新たな地域資源の発掘
- 地域振興
地域の観光スポットと連携、広がりを持ったイベントに
地域消費の促進
- 産業振興
本離れ解消に貢献
出版・印刷業界への貢献
- 環境保全
季節の魅力的な自然のアピール
富士川の水辺空間の活用
自然保護への啓蒙

⑦今後の展開

- ・中部横断自動車道。
(増穂ICから新清水ICまで)
- ・リニア新幹線の開通
- ・「文字離れ」が進む現代の問題を解決できる、一つの解決手段に
- ・他の地域で行っている文学祭と連携
- ・一年を通して、本を読んでゆっくりできる空間を常設。
(例 カフェの通年営業)